



# 子育てチャンネル

## 娘の選択

今日は娘の誕生日。15歳になりました。今後彼女は20歳から22歳となる誕生日までの期間に大事な決断を下さなくてはなりません。

国籍の異なる両親を持つため、今は日本とアメリカ両国のパスポートを所持しています。しかしながら、法律によって、いずれはどちらか一つの国籍を選択しなくてはならないのです。

もちろん親の希望はありますが、やはり娘の人生は彼女自身で決めるべきものだと思います。ただ、タイムリミットが来る前に、彼女は自分の将来について果たして正しい判断ができる大人に成長できるのか、心配は尽きません。

15歳といえば、私の故郷アメリカ・テキサス州では自動車の運転を習うことができる年齢です。

言い方を変えれば、社会的にいろいろな権利も得られますが、一方で自分の行動に責任も負わなくてはな

らない「ヤングアダルト」と呼ばれる年代です。

日本社会では10代の若者はまだまだ親に甘えている子供というイメージですが、アメリカでは親からのサポートがどんどん減り、一人の社会人として扱われ始めます。

実際、私は親からのお小遣いをもらった記憶はありません。お金が必要なら、自分で仕事を見つけてきました。

夏休みには毎日のように早朝から夕方までアルバイトをして大学へ行く資金を貯めたものです。中古の車も高校生のときに自分で稼いだお金で買いました。親に何か買ってもらうとか、学費を払ってもらうなどと思いませんでした。



多くの日本の親は、子供に期待して惜しみなく教育費にお金を使っているようですが、知識を詰め込ませ、より有名な高校、大学へ行かせることが本当の意味で子供の人的成長につながっているのでしょうか？

受験勉強の経験のない私が日本の教育システムについて批判する気持ちはありませんが、娘が今経験している高校受験や今後の大学受験のために、どれだけ多くの時間を犠牲にしなければならないのか不思議です。

好きなスポーツ活動を休止し、また友達や家族と楽しく過ごす時間をカットして勉強だけに打ち込まなく

てはなりません。この年代の成長過程において何かが欠けてしまうような気がします。

日本で暮らして8年目。かつて幼少期にアメリカナイズされていた娘も、今ではすっかり日本人。やはり周囲の人間や生活環境が人を変えてしまうのでしょうか。今の娘は日本食を好み、日本文化、歴史に興味を示し、日本のマンガ、ゲームにはまっている毎日。

「北海道が一番。蒸し暑いのはイヤ！ 外国も本州もイヤ!! ずっとここで暮らしたい」と宣言され、7年後にどちらの国籍を選ぶかはもはや明白かもしれせん。

でも、まだ7年の猶予があります。それまでにいろいろな経験をし、いろんな人に出会い、十分成長した人間になってから正しい判断を下してもらいたいと思うばかりです。

松山 ニコール